

場所 茨城県つくば市

面積 9.87ha

活動目的 多様な生物の生息環境の保全と増進、協会の活動目的である、豊かな森林環境の保全、30by30、ネイチャーポジティブの推進に向けた情報発信に役立てる。登山、観光客らに豊かな自然に触れてもらう場を提供する。



サイト概要 「つくば万博の森」は、茨城県つくば市の筑波山の南に位置する宝篋山（461m）の中腹（標高約210～400m）に広がる国有林。1985年の「つくば万博」開催を機に、当協会と朝日新聞社がマツクイムシ被害からの森林再生を掲げ、全国の約4万2千人から集めた募金をもとに、ヒノキなど約3万本を植林した。

経済林という目的だけでなく、地元からの要望を受けて多角的な利用を見据えた森づくりを目指し、宝篋山に多いヤマザクラやクリ、コナラなども植樹。尾根沿いの広場にも多彩な植物が自生し、動物のすみかや移動場所となる豊かな生物多様性が保たれている。

土地利用の 変遷

1970年代は大半がアカマツ林だったが、マツクイムシの被害がその約4割に及び、1983年、84年に皆伐された。跡地をつくば万博の森として造成するため、85年、当協会が東京営林局（当時）と60年間の分収造林契約を締結。塩田敏志・東大教授（当時）らに造成計画を依頼した。以降、当協会が維持管理を担い、定期的な間伐や下草刈り、枝打ちなどの森林育成を継続している。

サイト周辺の 環境

宝篋山は筑波山から南東に連なる筑波連山の支峰の一つで、本サイトを含む全域が「水郷筑波国定公園」（筑波地域）に指定されている。本サイトは宝篋山の南西方向の斜面で、林内および国有林との敷地境界には沢もあり、動物の水場となっている。隣接地は国有林および民有林。ふもとには集落があり、水田や畑が広がる。

アピール ポイント

「生物多様性」という概念が浸透していなかった39年前から、森林の多面的機能を重視した森づくりを目指し、ヒノキ中心の林にヤマザクラなどの広葉樹を植樹。ボランティア講座を開催するなど、地元自治体や住民と連携した整備を進めてきた。哺乳類はイノシシやタヌキ、国内で減少しているニホンノウサギなどが生息し、野鳥についてもトビやツミ、カケスなど多彩な種が確認されている。

募金者全員の氏名を銅板に刻んだ記念碑が建つ広場には、木製テーブルやベンチが設置され、周辺を通るハイカーの憩いの場となっている。

当協会は1978年の設立以来、「山と木と人の共生」を基本理念に調査研究活動や普及啓発活動などの公益事業を展開しており、自然共生サイトの認定によって、万博の森造成に賛同した全国の募金者の思いに応えるとともに、現地での自然再興の取り組みをさらに拡充し、生物多様性保全に向けた社会的関心の向上につなげていきたい。

生態系調査を継続して実施、動植物の季節ごとの生息状況や変化を把握している。

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】

ヒノキ主体の針葉樹林に、ヤマザクラなどの広葉樹が点在する里山環境と、針葉樹林の辺縁部に広がる広葉樹やササなど多く種によって構成された林、尾根沿いの開放空間である広場と、多彩な里山環境が形成されている。森林の定期的な間伐、草刈り、加えて遊歩道については、つくば市による遊歩道の維持管理によって、二次的な自然環境が保たれ、多彩な生態系が存在している。

【主な植生】

主な植生はヒノキ林であるが、遊歩道や広場には開放性の土地を好む多彩な植物が確認され、2023年11月および24年5月実施の調査で累計313種が確認されている。ヒノキ林に植樹起源と自然発生のコナラ、ヤマザクラ、イヌザクラ、ウワミズザクラなどの落葉広葉樹が混生。シダ植物層は暖地性を含む38種と豊富な種が確認されている。

【確認された主な動植物など】

地上哺乳類：8種 イノシシ、ニホンノウサギ、タヌキ、アナグマ、アライグマ、
ハクビシン、ニホンリス

鳥類：冬季調査(2023.12~2024.02)で25種 ツミ、トビ、カケス、ウソ、コゲラ、
ミソサザイ、アオジ、ウグイスなど

春季夏季調査(2024.05~06)で26種 クロツグミ、シジュウカラ、ヤマガラ
など

植物：313種 ヤマザクラ、イヌザクラ、コナラ、コ克蘭、ジュウモンジシダ、
リョウメンシダ、イノデ
など



写真の説明：ヒノキの枝にとまったカケス



写真の説明：ニホンノウサギ センサーカメラで撮影

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

60年間の分収造林契約に基づくヒノキを中心とした森林資源の育成、搬出間伐による木材の素材提供。

育林に伴う炭素吸収と固定、適切に手入れ続けることによる森林の保水、防災効果も期待される。ハイカーや登山者に豊かな自然環境に親しんでもらうほか、協会が企画した記念登山や森林ボランティア育成講座でも当該林を活用してきている。遊歩道沿いに設置したセンサーカメラの画像からは、例えば24年4月22日から5月15日の期間をみても、のべ約600人が林内の遊歩道を利用した。目的は登山、トレイルランニングなど幅広く、子どもからシニアまで幅広い年齢層の人々が利用し、広場に設置したベンチで一休みする光景もよくみられる。

【主な植生】

主な植生はヒノキ林で、分収造林契約に基づく育林を行っている。林内を中心にシダ植物は暖地性を含む38種の豊富な種を確認。遊歩道沿いにはヤマザクラなどが自生し、春には咲き乱れた花を登山者らが楽しむ様子が見られる。広場では開放性の土地を好む多彩な植物が確認されている。

【確認された主な動植物など】

地上哺乳類：8種 イノシシ、ニホンノウサギ、タヌキ、アナグマ、ニホンリスなど

鳥類：冬季調査(2023.12~2024.02)で25種 ツミ、トビ、カケス、ウソ、コゲラ、ミソサザイ、アオジ、ウグイスなど

春季夏季調査(2024.05~06)で26種 クロツグミ、シジュウカラ、ヤマガラなど

植物：313種 ヤマザクラ、イヌザクラ、コナラ、コクラン、ジュウモンジシダ、リョウメンシダ、イノデなど



写真の説明：遊歩道を歩くタヌキ センサーカメラ撮影



写真の説明：広場に咲いたツツジを撮影するハイカーたち

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

ヒノキを主体とした森林内にヤマザクラなどが点在するほか、森林の辺縁部は広葉樹やササが主体の里山環境を形成している。尾根沿いの広場やつくば市が管理する遊歩道でも多彩な植物が確認されている。

【確認された希少種】

本サイト内では、茨城県レッドリストに掲載された希少種として、植物4種が確認されている。

写真の説明：

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容	モニタリング計画の内容
<p>「つくば万博の森」は①ヒノキ主体の人工林 ②尾根付近の広場（開放空間）③人工林辺縁部のヤブや草地④遊歩道 で構成される。</p> <p>森林全体の適切な維持管理のため地元の県OB職員に草刈りや定期的なパトロールなどを委託している。</p> <p>①人工林は地元森林組合などに委託して定期的な間伐を実施。シダ類やササなど下層植生の育成にも寄与している。ヒノキ林内の草地ではニホンノウサギ、アナグマなどの哺乳類が通る様子が確認されており、今後も適切な管理に努める。</p> <p>②③④は生物多様性が豊かで、今後、遊歩道沿いで、枯れた木の除去などの保育作業を通じて辺縁部を拡大して、広葉樹や草が増えるようにする。枯れ木の一部は今年度内に伐採すべく調整する。</p> <p>また、ヤマザクラ、カスミザクラが複数自生している場所が複数あり、宝篋山に自生している種の可能性が高いと専門家の調査で判断されている。枯れ木伐採や下草刈りなどで生育環境の向上に務める。</p>	<p>【モニタリング対象】 地上哺乳類 鳥類 植物 昆虫類</p> <p>【モニタリング場所】 つくば万博の森の森林内および遊歩道</p> <p>【モニタリング手法】 地上哺乳類 動物センサーカメラ4台を設置して、継続してモニタリング。 鳥類 23年度に引き続き日本野鳥の会茨城県に委託 目視と鳴き声による調査 植物 23年度に引き続き植物の専門家に依頼し、目視による調査 昆虫 環境省が公表する昆虫の簡易モニタリングの活用を検討</p> <p>【モニタリングの実施時期及び頻度】 哺乳類は通年、鳥類、植物、昆虫は適宜実施を予定。モニタリングは2025年度以降も継続して実施している。</p> <p>【モニタリング実施体制】 1) 地上哺乳類 森林総合研究所などの専門家らの助言を受けながら、協会でカメラによる調査を継続する。毎月データの回収を行い、森林全体の生態系の把握に努めつつ、より多彩な生態系の回復、保全をめざした施策の効果を確認する。 2) 鳥類 日本野鳥の会茨城県に依頼し、繁殖、渡りなど野鳥にとって重要イベントの時期に合わせて調査を実施。 3) 植物 専門家に依頼して昨年秋に続いて発芽時期の春季に調査を実施し、通年での種の把握を進める。 4) 昆虫 種の把握を進める。</p>